

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取西高等学校

重点項目	大学進学	提出日	令和4年4月21日
------	------	-----	-----------

1 学校目標	
「深い学び」「幅広い学び」による高い進路目標の実現 ～新たな社会を牽引する人材の育成～	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な学びの研究と実践</li> <li>○生徒の知的総合力を高めるための指導力向上</li> <li>○生徒の資質・能力を引き出すキャリア教育の研究と実践</li> <li>○グローバルな視野と行動力をもつ人材の育成</li> <li>&lt;数値目標&gt;</li> <li>○大学合格者数 国公立大学 230 名、難関 10 大学・医学科 60 名</li> <li>○卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベル35%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の内容や手法についての情報共有や教科間の連携を通して、知の世界の豊かさや深さに触れる授業実践に取り組んだ。</li> <li>○各種研究会の成果や教科を超えた授業公開を基に、教科横断的及び文理融合的、ICTを活用した授業研究等で得た知見を教科内で共有し、授業に活かした。</li> <li>&lt;数値結果&gt;</li> <li>○国公立大学 181 名、難関 10 大学・医学科 27 名</li> <li>○卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてのCEFRのB1～B2レベル41.9%</li> </ul>
3 実施事業	
<p>【高等学校課事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「主体的・対話的で深い学び」教員スキルアップ事業</li> <li>・「アクティブ・ラーニングによる主体的・対話的で深い学びの推進」</li> </ul> <p>研究授業及び授業研究会における「S+TEAM授業のデザイン検討」講演を通して、全教科における「主体的・対話的で深い学び」や教科横断型・文理融合型の授業推進に向けて、多様な資質・能力を育てるための学習方法等について理解を深めることができた。また、新しい学習指導要領や全国の動向について知ることができた。</p> <p>【独自事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○探究的・教科横断的授業の研究及び学会・研究会への教員派遣</li> </ul> <p>新時代創造するリーダー育成に向けた協同的・探究的な授業実践、教科横断的な授業の取組を推進するために、先進校の視察等を通して、実践的な教科指導力の向上を図り、学びを深めるための教科指導や課題研究指導等に関わる最新の幅広い知見が得られた。</p>	
4 総合所見 (成果・評価)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策徹底のもと、各種事業においてオンラインで実施できるものについては積極的に取り組んだ。コロナ禍にあって、協同的な学習も実施が困難ではあったが、感染防止対策を徹底しながら多くの教員が実施に努めた。その結果、主体的に学ぼうとする態度や互いに議論して解決方法を提案しようとするような積極的な姿勢が見られるようになった。その結果、授業アンケートで「授業や各種の行事により、教養や関心の幅が広がっている」と答えた生徒90%、「学習の深まりとともに、自ら学ぶ意欲が高まった」生徒の割合が86%であった。</li> <li>・本校の重点目標である『「深い学び」「幅広い学び」による高い進路目標の実現』に向けて、教員は先進校</li> </ul>	

視察・学会、研究会へ参加する予定であった。しかしながらコロナウイルス感染症の拡大により県外への移動が長期にわたって制限され、参加が困難であった。また、参加予定の研修等も中止になり、事業がほぼ未消化に終わったことは極めて残念である。進学実績も振るわず、大学合格者数は国公立大学181名、難関10大学・医学科27名にとどまった。数値目標を大幅に下回り目標の達成ができなかった。今年度は、目標未達の原因をしっかりと分析し、改善策を考えるとともにPDCAサイクルを回しながら目標の達成に取り組みたい。

- ・卒業時のCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合が、41.9%と目標値を大きく超え、グローバルコミュニケーションに必要な語学力、コミュニケーション能力の育成も達成できた。

※枚数任意